

第2期ロジスティクス環境会議
グリーンサプライチェーン推進委員会 第10回源流管理分科会

2007年12月6日(木) 16:00~18:00
(社) 日本ロジスティクスシステム協会 会議室

次 第

1. 開 会

2. 議 事

1) チェックリストについて

(1) 評価軸項目について

2) その他

(1) グリーンロジスティクスガイド(仮称)への本チェックリストの掲載について

3. 閉 会

【配布資料】

- 資料1 : 第9回分科会以降の審議経過と本日の検討事項
資料2-1 : グリーンロジスティクスチェックリスト (Ver. 0.7_2)
資料2-2 : 本日検討を行う項目についての補足説明
資料2-3 : チェック項目81に関するヒアリング結果と修正素案
資料2-4 : グリーンロジスティクスチェックリスト (Ver. 0.7_2)
商慣行に絡む設問(抜粋)
資料2-5 : 「行政による支援策」に関する新規チェック項目について(素案)
資料3 : グリーンロジスティクスガイド(仮称)への本チェックリストの掲載について
資料4 : スケジュール(案)
参考資料1 : 第8回源流管理分科会 議事録

以 上

第9回分科会での審議結果と本日の検討事項

1. 第9回分科会での審議内容（確認）

1) 評価軸に関する検討

（主な結果）

- 評価軸の確定（25項目）
チェック項目 40-49、52-54、56-63、66、67、69、31、32
- チェック項目そのものの削除（3項目）
チェック項目（42）、64、65
- 事務局にて原案作成項目
 - ①チェック項目 30
 - ②チェック項目 56
 - ③行政施策に関する項目
- その他
 - ・評価軸すべてを見直し、“全く～していない”、“～すら”といった表現を“～したことがない”といった表現に修正する
 - ・評価軸の字数が短いパターンと現状パターンの2つを作成し、比較する。
 - ・定量的設問項目については別途検討する。

3. 本日の検討事項

1) 評価軸項目に関する検討

- ・チェック項目 73-86（荷役・保管・流通加工）
- ・チェック項目 25-30、55（商慣行関係）
- ・チェック項目 22、23、24
- ・チェック項目 34-39
- ・前回宿題箇所

以 上

グリーンロジスティクスチェックリストVer. 0.7_2

方	1.1 全社 的な 取り 組み	①グ リー ンロ ジス ティ クス のた めの 仕組 み・ 体制 の整 備	番号 旧 新	チェック項目	担当者	実施度合い				参考情報等
						出来ていない	遅れ気味で努力不足	まざまざ出来ている	よく出来ている	
			1	1	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。	企業の環境方針、行動計画等を策定していない。	企業の環境方針、行動計画等を策定しているが、トップのコミットメントがない、もしくはコミットメントの有無が不明である。	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。	左記に加え、企業の環境方針については、社内のみならず社外へも積極的に公表している。	・トラック運送事業におけるグリーン経営認証マニュアル(P17~21)
			2	2	環境委員会や環境部門で、ロジスティクス分野における方針が策定されている。	ロジスティクス分野における方針は存在しない。	ロジスティクス分野における方針を策定中である。	ロジスティクス分野における方針は策定されているが、具体的な実施計画等にはリンクしていない。	ロジスティクス分野における方針、目標、重点施策を策定し、それに基づいた活動を実施している。	
			3	3	グリーンロジスティクスを推進する体制が構築されている。	グリーンロジスティクスを推進する体制が存在しない。	環境部門の設置、もしくは環境担当者が選任されているのみで、各事業所を含めた推進体制構築までは至っていない。	各事業所を含めた全社的な推進体制が構築され、それぞれ責任者が任命されている。	左記に加え、各段階で、定期的に会合が開催されている。	・トラック運送事業におけるグリーン経営推進マニュアル(P32~34)
			4	4	グリーンロジスティクス推進に向けての計画があり、周知徹底している。	グリーンロジスティクス推進に向けての計画は存在しない。	同左の計画を策定中である。	同左の計画は策定しているが、策定部門以外は把握していない。	同左の計画を策定し、全社的に周知徹底している。	・トラック運送事業におけるグリーン経営推進マニュアル(P20~21)
			5	5	グリーンロジスティクス推進のため、社員へ教育(人材育成)を行っている。	グリーンロジスティクス推進のための教育訓練は実施していない	グリーンロジスティクス推進のための教育訓練実施に向けて、検討している。	ロジスティクス関係部門を対象とした教育訓練は実施しているが、定期的かつ計画的なものではない。	環境に関する教育メニューを整理し、ロジスティクス関係部門に対し、定期的かつ計画的に教育訓練を実施している。	・トラック運送事業におけるグリーン経営推進マニュアル(P34~36) ・グリーンロジスティクスエキスパート講座、グリーン物流基礎コース(JILS)
			6	6	海外拠点を含めて、ロジスティクス分野における環境対策を実施している。	海外拠点、国際物流については、実施有無含めて全く把握していない。	海外拠点、国際物流については、環境対応を実施していない。	海外拠点、国際物流について、事業所ごとに環境対応を進めている。	海外拠点、国際物流について、会社として統一的に環境対応を進めている。	
			8	7	ロジスティクス分野において、法令遵守(各種リサイクル法、過積載輸送の防止など)徹底に向けて取り組みをしている。	自社が遵守しなければならない法令が整理されていない、もしくは整理されているかどうか不明である。	ロジスティクス分野に関連して遵守しなければならない法令を整理しているが、該当する部門の従業員への周知や教育は行っていない。	ロジスティクス分野に関連して遵守しなければならない法令を従業員へ周知・教育を実施している。	左記に加えて、定期的な内部監査等でチェックしている。	
			9	8	ISO14000sを取得している(自己宣言相当の活動をしている)。	ISO14000sを知らない、もしくは取得の検討を行ったことがない。	ISO14000sの取得に向けて、検討している。	一部の事業所でISO14000sを取得している。	全社でISO14000sを取得している。	・日本工業標準調査会 ホームページ http://www.jisc.go.jp/mss/ems-14001.html
			10	9	エコアクション21を取得している(自己宣言相当の活動をしている)。	エコアクション21を知らない、もしくは取得の検討を行ったことがない。	エコアクション21の取得に向けて、検討している。	一部の事業所でエコアクション21を取得している。	全社でエコアクション21を取得している。	財団法人地球環境戦略研究機関 持続性センター http://www.ea21.jp/
			11	10	グリーン経営認証を取得している(自己宣言相当の活動をしている)。	グリーン経営認証を知らない、もしくは取得の検討を行ったことがない。	グリーン経営認証の取得に向けて、検討している。	一部の事業所でグリーン経営認証を取得している。	全社でグリーン経営認証を取得している。	交通エコロジー・モビリティ財団 ホームページ http://www.ecomo.or.jp/topix/nins hou%20pamphlet%2020070620.pdf
			12	11	物流・ロジスティクス活動に伴って発生する廃棄物の再資源化に向けて取り組んでいる。	廃棄物の再資源化に向けた取り組みを行っていない。	廃棄物の再資源化に向けた取り組みを一部の事業所で実施している。	廃棄物の再資源化に向けた取り組みを全ての事業所で実施している。	左記活動に積極的に取り組み、一部事業所ではゼロエミッションを達成している。	
			13	12	ロジスティクス活動において発生する環境負荷の項目を把握している。	自社のロジスティクス活動で発生する環境負荷の項目を把握していない。	自社のロジスティクス活動で発生する環境負荷の項目の一部は把握しているが、全て網羅できていない。	自社のロジスティクス活動で発生する環境負荷の項目を全て把握、整理できている。	左記に加え、把握、整理した内容を方針や計画の策定の際に活用している。	
			13	13	輸配送に係る環境パフォーマンスを算定している。	パフォーマンスの算定を行っていない、もしくは算定方法を知らない。	パフォーマンスの算定に向けて、検討している。	パフォーマンスの算定を行っている。	左記に加え、算定結果を活用して、PDCAサイクルに基づく改善活動に取り組んでいる。	
			14	14	包装に係る環境パフォーマンスを算定している。	パフォーマンスの算定を行っていない、もしくは算定方法を知らない。	パフォーマンスの算定に向けて、検討している。	パフォーマンスの算定を行っている。	左記に加え、算定結果を活用して、PDCAサイクルに基づく改善活動に取り組んでいる。	

	番号 旧 新	チェック項目	担当者	実施度合い				参考情報等
				出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている	
	14 15	グリーンロジスティクス推進のため、グループ企業、取引先、業界団体(自主行動計画など)と共同で取り組んでいる		自社単独での取り組みであり、グループ企業や取引先、業界団体と連携した取り組みは実施していない。	グループ企業と共同で取り組んでいるが、取引先や業界団体と連携した取り組みは実施していない。	グループ企業、及び取引先と共同で取り組んでいるが、業界団体とは連携した取り組みは実施していない。	グループ企業、及び取引先と共同で取り組むとともに、業界団体としての環境負荷低減活動に積極的に取り組んでいる。	・グリーン物流パートナーシップ会議 推進事業
	15 16	協力会社(傭車先等)に対し、環境配慮のための育成・指導を行っている。		協力会社に対し、環境配慮のための育成、指導は行っていない。	協力会社に対する環境配慮のための育成、指導の方針、計画等を作成中である。	一部の協力会社に対し、環境に係る方針、計画等に基づく育成・指導を実施している。	半数以上の協力会社に対し、環境に係る方針、計画等に基づく育成・指導を実施している。	
	16 17	物流拠点の周辺住民と共に、環境負荷(騒音、振動、ゴミ等)の軽減に向けた取り組みを実施している。		物流拠点の周辺住民を意識した取り組みは、特に実施していない。	敷地外の清掃活動等は行っているが、周辺住民と話し合いを行ったことはない。	周辺住民への話し合いを実施したことはあるが、継続的な活動には至っていない。	物流拠点の周辺住民と定期的にコミュニケーションを図り、環境負荷低減に努めている。	
	7 18	ロジスティクス分野における環境に対する取り組みを環境報告書や環境レポート等に記載している。		環境に対する取り組みをまとめた環境報告書や環境レポート等を作成していない。	環境報告書や環境レポート等を作成しているが、ロジスティクス分野に関する記載はない。	環境報告書や環境レポート等を作成し、ロジスティクス分野に関する記載を行っているが、環境負荷に関する定量的な記載は行っていない。	環境報告書や環境レポート等を作成し、ロジスティクス分野での環境負荷について、定量的な記載を行っている。	・環境報告ガイドライン2007年版(環境省)
		その他						
②公害の防止・軽減	18 19	輸送機関(トラック、船舶等)の大気汚染の防止、軽減の施策を実施している。		輸送機関の大気汚染について特に配慮せず、防止、軽減に向けた施策を実施していない。	各事業所の担当部署に対応を任せており、全社的に現状把握や対策実施等は行っていない。	輸送機関の大気汚染の防止、軽減に向けて、各種法令遵守の徹底を行っている。	左記に加え、自主基準の制定やPDCAサイクルに基づく定期的な改善活動を実施している。	
	17 20	騒音・振動の防止、軽減の施策を実施している。		騒音・振動について特に配慮せず、防止、軽減に向けた施策を実施していない。	各事業所の担当部署に対応を任せており、全社的に現状把握や対策実施等は行っていない。	騒音・振動の防止、軽減に向けて、各種法令遵守の徹底を行っている。	左記に加え、自主基準の制定やPDCAサイクルに基づく定期的な改善活動を実施している。	
	19 21	水質汚濁の防止・軽減の施策を実施している。		水質汚濁について特に配慮せず、防止、軽減に向けた施策を実施していない。	各事業所の担当部署に対応を任せており、全社的に現状把握や対策実施等は行っていない。	水質汚濁の防止、軽減に向けて、各種法令遵守の徹底を行っている。	左記に加え、自主基準の制定やPDCAサイクルに基づく定期的な改善活動を実施している。	
		その他						

	番号 旧 新	チェック項目	担当者	実施度合い				参考情報等		
				出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている			
1.2 環境に配慮した製品開発・生産体制	①製品開発	20	輸送効率向上と包装資材の削減を考慮した製品開発を実施している。	栗原 (事務局)	輸送効率向上と包装資材削減を考慮した製品開発は実施していない	輸送効率向上のみ、もしくは包装資材削減のみの視点で製品開発が行われている。	輸送効率向上と包装資材削減を考慮した製品開発が実施されているが、開発・設計部門単独であり、物流部門を巻き込んだ検討はほとんど行われていない。	輸送効率向上と包装資材削減を考慮した製品開発が実施されており、物流部門も積極的に改善提案している。		
		22	輸送効率向上と包装資材の削減を考慮した製品開発を実施している。		輸送効率向上と包装資材削減を考慮した製品開発は実施していない。	一方のみの視点であり、双方を考慮した製品開発には至っていない。	物流部門も関与し、双方を考慮した製品開発を実施しつつある。	物流部門も関与し、双方を考慮した製品開発を積極的に進めている。		
		21	物流に関する記載が含まれた製品アセスメントガイドラインやマニュアルを利用して、製品評価を実施している。	栗原 (事務局)	製品評価を実施していない	製品評価は実施しているが、製品アセスメントガイドラインやマニュアルに、物流に関する記載がない。	一部の製品に関して、物流に関する記載が含まれた製品アセスメントガイドラインやマニュアルを利用して、製品評価を実施している。	すべての製品に関して、物流に関する記載が含まれた製品アセスメントガイドラインやマニュアルを利用して、製品評価を実施している。	・家電製品 製品アセスメントマニュアル概要版(財団法人 家電製品協会)	
		23	物流に関する記載が含まれた製品アセスメントガイドラインやマニュアルを利用して、製品評価を実施している。		製品評価を実施していない、もしくは実施しているかどうか把握していない	製品評価は実施しているが、製品アセスメントガイドライン等に、物流に関する記載がない。	一部の製品に関して、物流に関する記載が含まれた製品アセスメントガイドライン等を利用して、製品評価を実施している。	すべての製品に関して、物流に関する記載が含まれた製品アセスメントガイドライン等を利用して、製品評価を実施している。	・家電製品 製品アセスメントマニュアル概要版(財団法人 家電製品協会)	
			その他							
	②生産体制	22	積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用といったことに対応した生産体制を構築している。	栗原 (事務局)	生産体制の見直しによる積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用といった検討は行っていない。	生産体制の見直しによる積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用のために、生産部門へ提案を行っているが、実現に至っていない	生産体制の見直しによる積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用のために、生産部門と調整を行い、一部の工場で生産体制の見直しが図られている。	生産体制の見直しによる積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用のために、定期的な生産部門と調整を行い、最適な生産体制の構築をはかっている。	・パナソニックモバイルコミュニケーションズの事例(マンスリー貨物2007年4月号より)	
		24	積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用といったことに対応した生産体制を構築している。		生産体制の見直しによる積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用といった検討は行っていない。	生産体制の見直しによる積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用のために、生産部門と検討を進めている。	左記の結果、一部の工場で生産体制の見直しが図られている。	左記に加え、さらなる効果を上げるため、生産部門とともに継続的に検討を進めている。	・事例10 (パナソニックモバイルコミュニケーションズの事例(マンスリー貨物2007年4月号より))	
				その他						
	1.3 商取引の適正化	①ロットの適正化	23	取引先と調整し、取引基準を設定(取引単位を物流単位と整合化するなど)している。	栗原 (事務局)	取引先、もしくは自社営業部門の要求どおりの取引単位で物流を実施しており、取引基準の設定についての提案すら行ったことがない	自社営業部門に対し、取引基準の設定提案を行っているが、営業部門に受け入れてもらえない。	取引先に対し、自社営業部門とともに取引基準設定の提案を行っているが、取引先に受け入れてもらえない	取引先に対し、自社営業部門とともに取引基準設定の提案を行い、一部取引先に受け入れてもらい、実施している	
			25	取引先と協力し、取引基準を設定(取引単位を物流単位と整合化するなど)している。		取引先の要求どおりの取引単位で物流を実施しており、取引基準の設定についての提案を行ったことがない。	取引先に対し、取引基準の設定提案を検討している。	左記提案を、一部の取引先に受け入れてもらい、実施している。	左記に加え、他の取引先へ広げるべく積極的に進めている。	・取引条件見直しによる物流の環境負荷低減効果に関する調査報告書(JILS)
24			取引先にインセンティブを提供して、輸送単位を大きくするように誘導している。	栗原 (事務局)	取引先、もしくは自社営業部門に対して、ロット割引等、輸送単位を大きくするような提案を行なったことがない。	自社営業部門に対し、ロット割引等、輸送単位を大きくするよう提案を行っているが、営業部門に受け入れてもらえない。	取引先に対し、自社営業部門とともにロット割引等、輸送単位を大きくするよう提案を行っているが、取引先に受け入れてもらえない	取引先に対し、自社営業部門とともにロット割引等、輸送単位を大きくするよう提案を行い、一部取引先に受け入れてもらい、実施している。		
26			取引先にインセンティブを提供して、輸送単位を大きくするように誘導している。		取引先はおろか、自社営業部門に対しても、ロット割引等、輸送単位を大きくするよう提案を行なったことがない。	取引先に対し、ロット割引等、輸送単位を大きくするよう提案を検討している。	左記提案を、一部の取引先に受け入れてもらい、実施している。	左記に加え、他の取引先へも広げるべく積極的に進めている。	・取引条件見直しによる物流の環境負荷低減効果に関する調査報告書(JILS)	
			その他							
②頻度・時間の適正化		25	取引先と調整し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を実施している。	堀口	取引先と調整し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を実施していない。	取引先と調整し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を提案している。	取引先と調整し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を一部実施している。	取引先と調整し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を実施している。		
		27	取引先と協力し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を実施している。		取引先はおろか、自社営業部門に対しても、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)提案を行ったことがない。	取引先に対し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)提案を検討している。	左記提案を、一部取引先に受け入れてもらい、実施している。	左記に加え、他の取引先へも広げるべく積極的に進めている。		

番号 旧 新	チェック項目	担当者	実施度合い				参考情報等	
			出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている		
26	取引先と調整し、輸送量のピーク期間を移動させることにより平準化している。	堀口	取引先と調整し、輸送量のピーク期間を移動させることにより平準化は実施していない。	取引先と調整し、輸送量のピーク期間を移動させることにより平準化を提案している。	取引先と調整し、輸送量のピーク期間を移動させることにより一部平準化している。	取引先と調整し、輸送量のピーク期間を移動させることにより平準化している。		
28	取引先と協力し、輸送量のピーク期間を移動させることにより平準化している。		取引先はおろか、自社営業部門に対しても、輸送量のピーク期間を移動させる提案を行ったことがない。	取引先に対し、輸送量のピーク期間を移動させる提案を検討している。	左記提案を、一部取引先に受け入れてもらい、実施している。	左記に加え、他の取引先へも広げるべく積極的に進めている。		
27	入出荷時間を定刻化し、貨物車の待機時間を短縮している。	堀口	入出荷時間を定刻化し、貨物車の待機時間は実施していない。	入出荷時間を定刻化し、貨物車の待機時間の提案している。	一部分、入出荷時間を定刻化し、貨物車の待機時間を短縮している。	入出荷時間を定刻化し、貨物車の待機時間を短縮している。		
29	入出荷時間を定刻化し、貨物車の待機時間を短縮している。		入出荷時間を定刻化しておらず、貨物車の待機時間はバラバラである。	入出荷時間を定刻化し、貨物車の待機時間短縮を検討している。	一部分、入出荷時間を定刻化し、貨物車の待機時間を短縮しようとしていている。	入出荷時間ならびに貨物車を定刻化し、貨物車の待機時間を短縮している。		
	その他							
③返品・回収の適正化	28	返品物流費を有償化し、返品を抑制している。	小松	返品物流費が顧客(代理店・販売店)負担になっていない	2~3割の顧客には負担してもらっている	6~7割の顧客に負担してもらっている	約9割の顧客に負担してもらい、抑制効果が出ている	
	29	取引先との調整により、納品条件の適正化や遵守により、返品を抑制している。	小松	取引先との調整による返品抑制はほとんどできていない	調整を試みているが抑制効果はまだ出ていない	6~7割の取引先と返品抑制の契約ができています	約9割の取引先と契約ができ返品抑制になっている	
		物流の無駄の大きな要因となっている、瑕疵のない製商品の返品について、抑制策として返品物流費の有償化や売買契約の見直しなど、具体的な対応ができています。	小松	販売最優先体質の為、返品抑制対策は具体化できていない。	返品悪については各部署で理解しているが、具体的改善策に取り組み、まず社内から返品削減に関して意識改革を推進する部署がない。	販売先に対し返品物流費の有償化を交渉したり、売買契約に返品抑制のリポート条件を盛り込んだりして、徐々に返品抑制効果が出始めている。	営業の押し込み販売体質も改められ、販売促進策と同時に適正数量の製品導入を図り、得意先との売買契約で返品抑制条件も盛り込んだりして、返品率は減少傾向か前年より悪化はしていない。	
	30	返品抑制のために、返品物流費の有償化や売買契約の見直し等の施策を実施している。		販売最優先体質のため、返品抑制対策を実施できていない。	返品抑制に向け、実施可能な施策に関して、営業部門と検討している。	左記の結果、一部販売先に対し、返品抑制策を実施している。	左記に加え、他の取引先へも広げるべく積極的に進めている。	
		その他						
1.4 ①立地戦略 ネットワーク設計	30	環境負荷を考慮に入れて、物流拠点を配置している。	水頭	環境負荷を考慮にいれた配置をしていない。	配置する計画は、あるが実現していない。	環境負荷を考慮にいれた配置している。	配置しており、さらに改善計画がある。	
	31	環境負荷を考慮に入れて、物流拠点を配置している。		コストやサービレベルのみが検討項目となり、環境負荷については考慮していない。	環境負荷についても検討項目の1つとするべく、検討を行っている。	左記の結果、環境負荷も考慮に入れた拠点配置に取り組みつつある。	左記の結果、環境負荷を考慮に入れた拠点配置に積極的に取り組んでいる。	* 物流総合効率化法 http://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/freight/logistics_efficiency_guide_0703.pdf * グリーン物流パートナーシップ推進事業 http://www.greenpartnership.jp/
		その他						
②モーダルシフトの推進	31	32 輸送に鉄道を利用している。		鉄道を利用しておらず、検討も行っていない。	鉄道利用の検討を行っているが実施に至っていない、もしくは実施しているがモーダルシフト化率(企業全体)では5%未満である。	鉄道を利用しているが、モーダルシフト化率(企業全体)では15%未満である。	鉄道を利用し、モーダルシフト化率(企業全体)は15%以上となっている。	・モーダルシフト推進チェックシート・資料集(JILS) ・CO2委員会 モーダルシフトWG
	32	33 輸送に船舶(フェリーを含む)を利用している。		船舶を利用しておらず、検討も行っていない。	船舶利用の検討を行っているが実施に至っていない、もしくは実施しているがモーダルシフト化率(企業全体)では5%未満である。	船舶を利用しているが、モーダルシフト化率(企業全体)では15%未満である。	船舶を利用し、モーダルシフト化率(企業全体)は15%以上となっている。	・モーダルシフト推進チェックシート・資料集(JILS)
		その他						

	番号 旧 新	チェック項目	担当者	実施度合い				参考情報等	
				出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている		
1.5 情報化・標準化	①情報化の推進	33	需要予測の精度を向上させ、無駄な生産、在庫、輸送を削減している。	藤井	需要予測の仕組みが無く、生産、在庫、輸送の削減に連動していない。	需要予測の仕組みは、無いが、無駄な個別に生産、在庫、輸送を削減している。	需要予測の仕組みを構築し、無駄な生産、在庫、輸送の削減に取り組んでいる。	需要予測の仕組みを構築し、さらに予測精度向上に積極的に取り組んでいる。	
		34	実需要に即応した体制、又は需要予測の精度を向上させ、無駄な生産、在庫、輸送を削減している。		実需要に即応した体制、又は需要予測の仕組みが機能せず、無駄な生産、在庫、輸送が発生している。	部門単独の取り組みのため、全社としての無駄な生産、在庫、輸送削減に至っていない。	関係部門の連携による全社的な実需要即応体制や需要予測の仕組みができつつあり、効果が出始めている。	左記を積極的に進め、全社的に無駄な生産、在庫、輸送削減が実現できている。	
		34	標準物流EDI(JTRNなど)を利用し、配送伝票を電子化している。	菅田	配送伝票を電子化する環境(システムソフト・ハード)を持っていない。全て手作業である。	配送伝票を電子化する環境が整備されつつあるが、出荷物量の3割未満程度しか実現できていない。	配送伝票を電子化する環境が整備され、出荷物量の3割以上～6割未満が実現している。(JTRNも導入検討は実施済、または部分的に導入されている)	配送伝票を電子化する環境が整備され、出荷物量の6割以上が実現できている。(JTRNも導入事例が存在する)	JILS総研調査が必要
		35	標準物流EDI(JTRNなど)を利用し、配送伝票を電子化している。	菅田	配送伝票を電子化する環境(システムソフト・ハード)を持っておらず、全て手作業である。	配送伝票を電子化する環境が整備されつつあるが、出荷物量の部分的にしか実現できていない。	配送伝票を電子化する環境が整備され、出荷物量の約半分が実現できている。(JTRNも導入検討は実施済、または部分的に導入されている)	配送伝票を電子化する環境が整備され、出荷物量の半分以上が実現できている。(JTRNも導入事例が存在する)	*EDI推進協議会 http://jedic.ecom.jp/
		35	標準輸送ラベル(STARラベルなど)を使用している。	菅田	標準輸送ラベルに対する調査や検討も行われていない。存在も知らない。	標準輸送ラベルに対する調査や検討は行われているが、実施事例は無い。特に積極的な取組みは行っていない。	標準輸送ラベルに対する調査検討も実施済みである。導入に向けての調査活動が開始され、素案もまとめられている。	標準輸送ラベルを積極的に活用する方針が打ち出され、導入事例も実現しつつある。業界をリードする啓蒙や働きかけ活動が行われている。	JILS総研調査が必要
		36	標準輸送ラベル(STARラベルなど)を使用している。		標準輸送ラベルに対する調査や検討は行われていない、もしくは存在を知らない。	標準輸送ラベルに対する調査は行っているが、検討には至っていない。	標準輸送ラベル導入に向けて、具体的な検討を実施している。	標準輸送ラベルを積極的に活用する方針が打ち出され、一部で導入が実現している。	
		その他							
	②スペックサイズの標準化	36	ユニットロードシステムを導入している。	菅田	ユニットロードシステム(以下ULS)を考慮した活動を実施していない。またはULSそのものを知らない	ULSを調査検討し、可能な部分(対象)について導入を開始すべく、調査活動を開始している。または発荷主や着荷主へ提案し、働きかけようとしている。	ULSの可能な部分(対象範囲)についての調査は終了している。自社で可能な部分には採用済みであり、荷主にも働きかけ提案を実施中である。業界平均の採用率である。	自社で採用可能な部分(対象範囲)は実施済み。荷主にも積極的に提案し、業界平均を上回るULS採用率となっている。	業界別のULS採用率を調査必要
		37	ユニットロードシステムを導入している。		ユニットロードシステム(以下ULS)を考慮した活動を実施していない、もしくはULSそのものを知らない。	自社で採用可能な部分(対象)について導入に向けて検討している。	自社で可能な部分については採用済みであり、取引先にも提案を実施中である。	自社で可能な部分(対象)は採用済みであり、取引先にも積極的に提案し、実現できつつある。	*総合物流施策大綱(2005-2009)参考資料「今後推進すべき具体的な物流施策」 http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha05/15/151114/02.pdf 一貫パレチゼーションによるユニットロード化率は69%
			その他						
1.6 共同化	①共同輸配送の実施	37	輸配送回数の削減や積載率を高めるために、共同輸配送を実施している。	小松	共同配送は実施していない	共同配送を検討中だが未実施	6～7割の物量を共同配送に載せている	約9割の物量を共同配送に載せている	
		38	輸配送回数の削減や積載率を高めるために、共同輸配送を実施している。		共同輸配送は実施していない	共同輸配送実施に向けて、検討している。	共同輸配送を一部で実施している。	左記に加え、他にも広げるべく積極的に進めている。	
			その他						
	②保管施設の共同化	38	物流拠点を他社と共同で利用している。	菅田	物流拠点を共同化する意思が無い、または検討さえしていない。企業秘密が洩れるリスク大と感じ、消極的である。	物流拠点を共同化しようとの気持ちはあるが、何をどう進めて行けば良いか？判らずに、積極的な調査・取組みはしていない	保管効率と在庫低減の為に、常に共同化を意識し、可能な範囲については(協調精神で)取組み開始している。業界平均的な取組み実績である。	業界をリードする共同化の取組み事例を豊富に実現し、保管効率と在庫低減を実現している。	(業界別の)保管共同化実施状況を調査し、相対的な比較で実施度を判断する
		39	物流拠点を他社と共同で利用している。		物流拠点を他社と共同で利用しておらず、検討もしていない。	物流拠点の他社との共同利用に向けて、検討している。	一部拠点において、他社との共同利用を開始している。	左記に加え、他にも広げるべく、積極的に進めている。	
	その他								

活	2.1	①包装資材の見直し	番号		チェック項目	担当者	実施度合い				参考情報等	
			旧	新			出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている		
活	2.1	①包装資材の見直し	39	40	使用包装資材を薄肉化、軽量化(段ボール紙質の軽量化 他)している。		使用包装資材の薄肉化、軽量化に取り組んでおらず、検討も行っていない。	使用包装資材の薄肉化、軽量化を検討している。	使用包装資材の薄肉化、軽量化に取り組みつつある。	使用包装資材の薄肉化、軽量化に積極的に取り組み、実現している。		
			40	41	小箱包装を廃止して大箱にまとめている。		小箱包装の見直しや廃止には取り組んでおらず、検討も行っていない。	小箱包装の見直しや廃止の検討を進めている。	小箱包装の見直しや廃止に取り組みつつある。	小箱包装の見直しや廃止に積極的に取り組み、実現している。		
			41	42	取引先と協力して、包装を省略(無包装化、簡易化)している。		無包装を実施しておらず、検討も行っていない。	無包装を検討し、取引先へ提案を行ったが、実現できていない。	取引先と協力して、包装の省略化に取り組みつつある。	取引先と協力して、包装の省略化に積極的に取り組み、実現している。		
			43	43	包装形態を簡素化(クレート、ハンガー輸送など)している。		包装形態の簡素化に取り組んでいない。	包装形態の簡素化に向けて検討している。	包装形態の簡素化に取り組みつつある。	包装形態の簡素化に積極的に取り組み、実現している。		
			44	44	未使用時も減容化しやすい包装材(折りたたみ式通い箱、組み立て式包装資材など)を採用している。		未使用時も減容化できる包装資材を利用していない。	未使用時も減容化できる包装資材導入を検討している。	左記の結果、導入を進めつつある。	左記の結果、積極的に導入を図っている。		
			その他									
			②リユース・リサイクル	45	45	運搬容器やパレットのリユースについて、全社でシステム化し管理している。		運搬容器やパレットのリユースに関する全社的なシステム化には取り組んでいない。	リユースの全社的なシステム化の検討を行っている。	左記の結果、初歩的な(エクセルによるハンド方式など)全社システムを構築・運用している。	本格的な全社システム化(DB化)を構築・運用するとともに、業界での取組みを活性化するための活動を進めている。	
				46	46	リターナブル、リユース、リサイクル可能な包装資材、運搬容器を使用している。		リターナブル、リユース、リサイクル可能な包装資材、運搬容器を使用しておらず、検討も行っていない。	リターナブル、リユース、リサイクル可能な包装資材、運搬容器の検討を行っている。	左記の結果、導入を進めつつある。	左記の結果、積極的に導入を図っている。	
			その他									
			③環境負荷の低い素材を使用	47	47	包装資材の再使用、再資源化、廃棄を考慮して、素材を変更している。		素材選定の際に再使用、再資源化、廃棄を考慮していない。	包装資材の再使用、再資源化、廃棄を考慮した素材変更の検討を行っている。	左記の結果、素材の変更を進めつつある。	左記の結果、素材の変更に積極的に取り組み、実現している。	石油系から紙系へ、木系から紙系への切替え、包装資材のリサイクル活動の活発度合い
				48	48	再生素材を原料とする包装資材を使用している(バージン素材を使用しない)。		包装資材に含まれている素材を把握せずに使用している。	再生素材を原料とする包装資材の検討をしている。	左記の結果、本格的に導入を進めつつある。	左記の結果、積極的に導入を進め、実現している。	素材に、再生紙40%以上、再生Pet布・繊維、生分解プラなどを使用。グリーン購入法に適合した資材の採用有無
				49	49	有害物質を含まない包装資材を使用している。		包装資材に含まれている素材を把握せずに使用している。	納品業者の説明を通じて大まかに理解しているが、積極的な取組みには至っていない。	納品業者の説明だけではなく、文献調査等を実施し、切替を実施しつつある。	有害物質が含まれている素材を完全に特定し、積極的に切り替えを進めている。	石油系材料などに有害物質が添加された材料が使用されていないこと 例: 溶剤系粘着材など 薰じようされた木製パレットの使用
			その他									
			④低公害機器の導入	50	50	省エネ型、低公害型の包装用機器を導入している。		省エネ型、低公害型の包装用機器を導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	省エネ型、低公害型の包装用機器導入に向けて、検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。	インバータ内蔵、低騒音、低排気ガス、省エネ型低消費電力/低燃費機器などの積極導入
				51	51	オゾン層破壊につながらない冷媒を使用した冷凍コンテナを使用している。	青柳(事務局)	冷凍コンテナの冷媒について、調査されていない。	フロン類を冷媒として使用している冷凍コンテナが、全体の50%以上を占める。	フロン類を冷媒として使用している冷凍コンテナが、全体の10%未満。	フロン類を冷媒として使用している冷凍コンテナを使用していない。	・使用%についての根拠なし。要調査。 ・フロン類から、HFCを冷媒とするコンテナへの代替事例があるが、HFCの方が地球温暖化係数が高いとの説あり。 ・日本郵船は、2004年に、フロン類からHFC冷媒への代替完了とある(以下HP参照) http://www.nykline.co.jp/profile/csr/safe/pdf/2005/3_07.pdf
						冷凍コンテナで使用されている冷媒について、把握していない。	オゾン層破壊係数が高いCHCを一部で使用している。	CHCよりもオゾン層破壊係数が低い、HCFCやHFCを冷媒とした冷凍コンテナへの代替が完了した。	左記に加え、よりオゾン層破壊係数が低いHFCを冷媒として用いたコンテナを積極的に導入している。	・日本船主協会ホームページ http://www.jsanet.or.jp/environment/text/environment3d/03_02_1.html CHC:冷媒名称 R-12 HCFC:冷媒名称 R-22 HFC:冷媒名称 R-134a等		
		その他										

活	2.2	①輸 配 送 計 画 の 見 直 し	番号		チェック項目	担当者	実施度合い				参考情報等	
			旧	新			出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている		
活	2.2	①輸 配 送 計 画 の 見 直 し	52	52	現状の輸送量やリードタイム等を勘案し、環境負荷の少ない輸送手段の使用を定期的に検討している。		環境負荷の少ない輸送手段の使用の検討を行っていない。	環境負荷の少ない輸送手段の使用を検討しているが、不定期である。	リードタイム的に可能な部分について、環境負荷の少ない輸送手段の使用を定期的に検討している。	リードタイム等の見直しを含めて、拡大に向けた検討を進めている。		
			53	53	配送において、物量に応じて、車種、車数、配送ルート、配送回数をきめ細かく見直し、配車計画に反映させている。		物量に応じた見直しは実施していない。	物量に応じた見直しを検討している。	物量に応じた見直しを実施しつつある。	物量に応じた見直しを日単位で実施している。		
			54	54	輸送において、輸送先、輸送量に応じて拠点経由と直送を使い分け、全体で輸送効率を向上している。		過去からの成り行きのまま、拠点経由と直送の使い分けを行っており、見直しは実施されていない。		拠点経由と直送の使い分けの見直しを検討している。	拠点経由と直送の使い分けの定期的な見直しを実施しつつある。	拠点経由と直送の使い分けを月単位で見直ししている。	
			55		輸送効率向上のために、定期的に納品条件見直し提案を実施し、改善をはかっている。	小松	輸送効率向上策は、特に検討していない		検討はしているが、取引先の了解が得られず実現していない	定期的に配車編成を見直し、効率化を図っている	毎月配車編成を見直し、納品条件の改善を了承してもらっている	
			55		輸送効率向上のために、定期的に納品条件見直し提案を実施し、改善をはかっている。		「納品条件は与件であり、変更できない」といった考えにより、見直し提案を実施していない。		納品条件見直し提案は行っているが、営業部門や取引先の了解が得られず、実現できていない。	納品条件見直し提案を行い、一部取引先で実施している。	納品条件見直し提案を定期的に行い、半数以上の取引先で実施している。	
				その他								
		②積 載 率 の 向 上	56		求貨求車システムを導入している。	青柳 (事務局)	求貨求車システムを全く利用していない。	イレギュラーな輸送が発生した時のみ利用し、積極的な活用はしていない。	恒常的に利用しているが、複数のシステムに登録するなど、積極的な活用はしていない。	複数のシステムに登録し、積極的に活用している。		
			56		帰り荷の確保のための工夫をしている。		帰り荷の確保のための取り組みは行っていない。	帰り荷の確保のための検討を行っている。	左記の結果、一部については、帰り荷の確保を実現している。	左記に加え、グループ会社、納品先等とも協力し、帰り荷のさらなる確保につとめている。		
			57	57	輸送・取引単位が小ロットの場合は混載や共同輸送を利用している。		小ロットの貨物に関し、混載や共同輸送は利用していない。	混載や共同輸送の利用を行っているが、小ロットの全体の物量の5割未満である。	小ロット全体の物量の5割以上9割未満で、混載や共同輸送を利用している。	小ロット全体の物量の9割以上で、混載や共同輸送を利用している。		
			58	58	得意先への配送の際には、他社との共同配送により積載率を高めている。		共同配送を実施しておらず、検討も行っていない。	共同配送実施に向け、他社との検討を進めている。	左記の結果、共同配送を実施している。	左記に加え、参加企業の増加や対象地域の拡大等、さらなる共同配送の拡大につとめている。	グリーンSC推進委員会 取引条件分科会	
			59	59	調達物流においてミルクラン方式(共同運行含む)を利用している。		調達物流の効率化に向けた検討を行っていない、もしくは調達部門マターであり、状況を把握していない。	調達物流の効率化に向けて、検討している。	左記の結果、一部事業所でミルクラン方式を導入している。	左記の結果、半数以上の事業所でミルクラン方式を導入している。		
			60	60	トラックの大型化・トレーラ化により、便数を削減している。		過去からの成り行きのまま、トラックの車種を選定しており、見直し検討も行ったことがない。	便数削減に向けて、大型化やトレーラ化の検討を進めている。	大型化やトレーラ化により便数削減を実施している。	左記に加え、定期的に見直しを行い、さらなる便数削減に努めている。		
			61	61	車両の積載効率向上のために、二段化等、積載方法を工夫している。		積載方法の工夫は行っておらず、コンテナ等の上部等に空きスペースがある。	積載率向上のための積載方法の検討を進めている。	一部の荷物の輸送に関して、積載方法の工夫による積載率向上を実現している。	荷物に応じた積載方法の工夫により、積載率向上を実現している。		
				その他								
		③点 検 ・ 整 備 ・ 安 全 管 理	62	62	タイヤ空気圧の測定・補充を定期的に行っている。		タイヤ空気圧の測定・補充を実施していない。	タイヤ空気圧の測定・補充を実施しているが、不定期である。	タイヤ空気圧の測定・補充を定期的に実施している。	左記に加え、点検項目をチェックリスト化し、その結果が管理されている。	交通エコロジー・モビリティ財団 ホームページ http://www.ecomo.or.jp/topix/torikumi_jirei_truck.pdf	
			63	63	エアフィルターの点検・清掃・交換を定期的に行っている。		エアフィルターの点検・清掃・交換を実施していない。	エアフィルターの点検・清掃・交換を実施しているが、不定期である。	エアフィルターの点検・清掃・交換を定期的に実施している。	左記に加え、実施項目をチェックリスト化し、その結果が管理されている。	交通エコロジー・モビリティ財団 ホームページ http://www.ecomo.or.jp/topix/torikumi_jirei_truck.pdf	
			64	64	排気ガスの色を目視で確認している。		排気ガスの色の確認を行っていない。	排気ガスの色の確認を行っているが不定期である。	排気ガスの色の確認を定期的に実施している。	左記に加え、確認項目をチェックリスト化し、その結果が管理されている。	交通エコロジー・モビリティ財団 ホームページ http://www.ecomo.or.jp/topix/torikumi_jirei_truck.pdf	
					その他							
		④エ コ ド ラ イ ブ	67	65	エコドライブに係るマニュアル等を用いて、エコドライブ活動を実施している。		エコドライブ活動を実施しておらず、検討も行っていない。	エコドライブ活動を実施しているが、一部事業所にとどまり、全社的な活動には至っていない。	エコドライブ活動に全社的に取り組んでいる。	左記に加え、車両別、ドライバー別の燃費、事故率等が管理するとともに、勉強会を継続的に実施している。	神奈川県 経営者、運行管理者のためのエコドライブマニュアル http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/taikisuisitu/car/01ecodrive/0113/0113text.html	

	番号		チェック項目	担当者	実施度合い				参考情報等
	旧	新			出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている	
	68	66	デジタコ等を活用し、ドライバーへエコドライブ指導を実施している。		デジタコ等を導入しておらず、エコドライブ指導ができていない。	デジタコ等の導入を検討している。	左記の結果、一部事業所でデジタコ等が導入されている。	左記の結果、デジタコ等の積極的な導入が行われ、かつ出力される結果に基づくドライバー指導が実施されている。	財団法人運輸低公害車普及機構 (LEVO) EMS普及事業 http://www.levo.or.jp/ems/ems00.html
⑤低公害車両の導入	69	67	クリーンエネルギー自動車を導入している。	狩谷	クリーンエネルギー自動車を導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	クリーンエネルギー自動車導入に向けて、検討している。	左記の結果、試験的に導入が行われている。	左記の結果、積極的に導入が行われている。	クリーンエネルギー車：CNG、ハイブリッド、LPG、電気自動車等 (社)日本自動車工業会HP http://clean-energy.jama.or.jp/lineup/
	70	68	最新の排気ガス規制に対応したトラックを前倒しで導入している。		トラックの規制及び対応について、担当者任せであり、把握していない。	規制にあわせた対応であり、前倒し導入は実施していない。	買い替え車両が発生した際には前倒しで導入している。	買い替え車両のみならず、他の車両についても計画的に前倒し導入を進めている。	国土交通省 自動車交通局 自動車排出ガス規制について http://www.mlit.go.jp/jidosha/sesaku/environment/osen/osen.htm
	71	69	エンジン停止時も冷凍機能が停止しない冷凍車を使用している。		エンジンを停止時も冷凍機能が停止しない冷凍車を導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	エンジンを停止時も冷凍機能が停止しない冷凍車導入に向けて、検討している。	左記の結果、試験的に導入が行われている。	左記の結果、積極的に導入が行われている。	
	72	70	エコタイヤを導入している。		エコタイヤを導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	エコタイヤ導入に向けて、検討している。	左記の結果、試験的に導入が行われている。	左記の結果、積極的に導入が行われている。	
	73	71	バイオマス燃料を利用している		バイオマス燃料を導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	バイオマス燃料導入に向けて、検討している。	左記の結果、試験的に導入が行われている。	左記の結果、積極的に導入が行われている。	
			その他						

活	2.3 荷役・保管・流通加工の見直し	①機器導入・運用の工夫	番号		チェック項目	担当者	実施度合い				参考情報等
			旧	新			出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている	
			74	72	環境負荷の高い物流機器を削減し、省エネ型物流機器、低公害型物流機器を導入している		省エネ型物流機器、低公害型物流機器を導入しておらず、導入の検討も行ったことはない。	省エネ型物流機器、低公害型物流機器導入に向けて、検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。	
			75		動線の確認や作業負荷に合わせた人員配置により、稼働時間、作業距離の短縮を実施している。	渡辺	動線の確認や作業負荷に合わせた人員配置の検討を未だ行っていない	動線の確認や作業負荷に合わせた人員配置の検討を行っていない	動線の確認や作業負荷に合わせた人員配置を行い、稼働時間・作業距離の短縮を図っている	動線の確認や作業負荷に合わせた人員配置を行い、稼働時間・作業距離の短縮を図り、内容を定期的に見直している	
			73		動線の確認や作業負荷に合わせた人員配置により、稼働時間、作業距離の短縮を実施している。		動線の確認や作業負荷に合わせた人員配置の検討を行っていない	動線の確認や作業負荷に合わせた人員配置の検討を行っているが、実施には至っていない	稼働時間、作業時間の分析は実施しているが大雑把であったり、見直しの頻度が低い。	常に適正な人員配置及びスペースでの作業が行われている。	
			76		環境負荷の低減を考慮して、物流機器の使用の制限や適切な能力の機器を使用している	渡辺	環境負荷の低減を考慮した、物流機器の運用や選択の検討を行っていない	環境負荷の低減を考慮した、物流機器の運用や選択を検討しているが、実施には至っていない	環境負荷の低減を考慮した、物流機器の運用や選択を行っている	環境負荷の低減を考慮した、物流機器の運用や選択を行っていない、内容を定期的に見直している	
			74		物流機器の使用の制限や適切な能力の機器の使用により、環境負荷低減を実現している。		環境負荷の低減を考慮した、物流機器の運用や選択の検討を行っていない	環境負荷の低減を考慮した、物流機器の運用や選択を検討しているが、実施には至っていない	環境負荷の低減を考慮した、物流機器の運用や選択を行っている	左記に加え、現場チェックを行い、徹底を図っている。	
					その他						
		②施設設計・レイアウト	77		物流量の変動並びに作業動線を考慮して、倉庫レイアウトを変更している。	渡辺	倉庫レイアウトの変更を未だ検討していない	倉庫レイアウトの変更を検討しているが、実施には至っていない	倉庫レイアウトの変更を実施している	倉庫レイアウトの変更を実施して、定期的な見直しを行っている	
			75		物流量の変動並びに作業動線を考慮して、倉庫レイアウトを変更している。		過去からの成り行きのままのレイアウトであり、変更は実施されていない。	倉庫レイアウトの変更を検討しているが、実施には至っていない	倉庫レイアウトの変更を実施しているが、不定期である。	倉庫レイアウトの変更検討を定期的実施し、常に適正なレイアウトで作業が行われている。	
			78		入荷と出荷の車両が混雑・交錯しないような設計を行っている。	渡辺	入荷・出荷による混雑を考慮していない	入荷・出荷による混雑を考慮してパースの物理的若しくは時間的な分離を検討しているが実施には至っていない	入荷・出荷のバースを物理的若しくは時間的に分離している	入荷・出荷のバースを物理的若しくは時間的に分離しており、内容を定期的に見直している	
			76		入荷と出荷の車両が混雑・交錯・滞留しないような施設・レイアウト設計を行っている。		入荷・出荷による混雑・交錯・滞留を考慮していない。	入荷・出荷による混雑を考慮してパースの物理的若しくは時間的な分離を検討しているが実施には至っていない	入荷・出荷のバースを物理的若しくは時間的に分離しているが、一部事業所に留まっている。	全社的に入荷・出荷のバースの物理的若しくは時間的な分離を実施している。	
			79	77	荷物積みおろし中の冷凍車のアイドリング防止のため、保冷車のコンセントを設置している。		保冷車のコンセントを設置しておらず、設置の検討も行ったことはない。	保冷車コンセント設置に向けて、検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。	
			80	78	積みおろしに伴う待ち時間のアイドリングを防止するため、ドライバー控室を設置している。		ドライバー控室を設置しておらず、設置の検討も行ったことはない。	ドライバー控室設置に向けて、検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。	
			81	79	電力設備、照明、空調に省エネ機器を導入している。	狩谷	電力設備、照明、空調に省エネ機器を導入しておらず、導入の検討も行ったことがない。	電力設備、照明、空調に省エネ機器の導入に向けて、検討している。	左記の結果、試験的に導入が行われている。	左記の結果、積極的に導入が行われている。	NEDOエネルギー使用合理化事業者支援事業 http://www.nedo.go.jp/ ・高効率変圧器、高効率省エネ器具、逐冷式冷却システム
			82		ラック、ネステナー、パレットサポーター等によって保管効率を向上させる工夫をしている。	渡辺	保管効率を向上させる機器導入は一部に留まっている。	機器の導入を行っていないが、在庫の変動による定期的な見直しは行っていない	機器の導入を行っており、在庫の変動による定期的な見直しを検討中である。	機器の導入を行っており、在庫ABC分析を用いて定期的な見直しを行っている。	
			80		ラック、ネステナー、パレットサポーター等によって保管効率を向上させる工夫をしている。		保管効率を向上させる機器導入は一部に留まり、平置きが多い。	機器の導入を行なうとともに、在庫の変動による定期的な見直しを検討している。	左記の結果、在庫の変動による見直しを実施しているが、不定期である。	左記の結果、在庫ABC分析を用いて定期的な見直しを行い、高効率な保管を実現している。	
			83	81	冷蔵・冷凍倉庫において、代替フロンやアンモニアガスを使用している。	狩谷			新しい設備を導入する際代替フロンを採用している。	新しい設備を導入する際ノンフロン冷媒を採用している。	新規に設置する場合は、代替フロンかノンフロンしか選択の余地がない。また漏れ防止が大切ではないか。
					冷蔵・冷凍倉庫において、アンモニアガス等のノンフロンを冷媒として使用している。		冷蔵・冷凍倉庫において、ノンフロンを冷媒として使用しておらず、使用の検討も行ったことはない。	冷蔵・冷凍倉庫において、ノンフロン使用に向けて検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。	

番号 旧 新	チェック項目	担当者	実施度合い				参考情報等
			出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている	
84	冷蔵・冷凍倉庫において、断熱性能を高める工夫をしている。	狩谷	検討をしたことがない。	検討中、又は検討したが実施していない。	コスト的に実施可能なものは完了している。	実施できるものは実施完了。	
82	冷蔵・冷凍倉庫において、断熱性能を高める工夫をしている。		断熱性能を高める方策を実施したことがなく、検討も行ったことはない。	断熱性能を高める方策を検討している。	断熱性の必要性を認識し、新設・立替を行う倉庫については方策を実施しているが、全体として1割にも満たない。	断熱性の必要性を認識し、新設・立替を行う倉庫については方策を実施し、全体として3割以上で実施されている。	
	その他						
③物量の平準化 85	入庫量、出庫量、保管量を平準化し、保管スペースをコンパクトにしている。	渡辺	平準化について未だ検討していない	単一部門としては取り組んでいるが、他部門(生産部門・営業部門)或いは荷主へ要請をしていない	単一部門としては取り組んでおり、他部門(生産部門・営業部門)或いは荷主へ要請し、共同で取り組むことを検討中である	単一部門としてだけではなく、他部門(生産部門・営業部門)或いは荷主へ要請し、共同で取り組んでいる	
83	入庫量、出庫量、保管量を平準化し、保管スペースをコンパクトにしている。		量に関する平準化について検討していない	物流部門として可能な方策によりコンパクト化を実現している。	左記に加え、荷主とタイアップした平準化活動に取り組み始めた。	左記に加え、荷主とタイアップした平準化活動に積極的に取り組んでいる。	
86	荷役・保管・流通加工作業を平準化し、保管スペースをコンパクトにしている。	渡辺	平準化について未だ検討していない	単一部門としては取り組んでいるが、他部門(生産部門・営業部門)或いは荷主へ要請をしていない	単一部門としては取り組んでおり、他部門(生産部門・営業部門)或いは荷主へ要請し、共同で取り組むことを検討中である	単一部門としてだけではなく、他部門(生産部門・営業部門)或いは荷主へ要請し、共同で取り組んでいる	
84	荷役・保管・流通加工作業を平準化し、保管スペースをコンパクトにしている。		作業に関する平準化について検討していない	物流部門として可能な方策によりコンパクト化を実現している。	左記に加え、荷主とタイアップした平準化活動に取り組み始めた。	左記に加え、荷主とタイアップした平準化活動に積極的に取り組んでいる。	
87	無駄な在庫を削減し、保管スペースをコンパクトにしている。	渡辺	不動態在庫、不良在庫の実態を数値的に把握していない	不動態在庫、不良在庫の実態を数値的に把握しているが、定期的な処置を行っていない	不動態在庫、不良在庫の実態を数値的に把握しているが、棚卸前など、必要に応じて処置を行なっている	在庫ABC分析を用いて、不動態在庫、不良在庫の削減に努め、定期的な処置を行なっている	
85	不動態在庫、不良在庫を削減し、保管スペースをコンパクトにしている。		不動態在庫、不良在庫の実態を数値的に把握していない	不動態在庫、不良在庫の実態を数値的に把握しているが、削減に向けた方策を定期的には実施していない。	不動態在庫、不良在庫の実態を数値的に把握し、棚卸前など、必要に応じて処置を実施している。	在庫ABC分析の結果等を営業部門等と情報共有することにより、適正な処置を定期的には実施している。	
88	物量変動を吸収するため、求庫システムを利用している。	小松	利用検討も利用実績もない	検討はしているが、まだ利用実績はない	6~7割程度は利用している	約9割程度は利用している	
	物量増を吸収するため、求庫システムを利用している。		求庫システムを利用したことがなく、利用検討も行ったことはない	求庫システム利用に向けて、検討を行っている。	求庫システムを試験的に利用している。	物量変動に合わせて、求庫システムを活用している。	
	その他						
④資材削減・変更 89	標準輸送ラベル(STARラベルなど)の利用や包装資材への直接印字により、ラベルの使用枚数を削減している。	菅田					
90	ラベルやラベルインキ、テープ、養生資材等の購入の際に、素材を考慮している(グリーン購入)。	藤井	資材購入において、グリーン購入の判断基準を組み入れていない	グリーン購入の判断基準はあるが一部にしか展開されていない	グリーン購入の判断基準にもとづいて購入を展開している	最新のグリーン購入対象の更新を行い、積極的に展開を図っている	
86	ラベルやラベルインキ、テープ、養生資材等の購入の際に、素材を考慮している(グリーン購入)。		素材を考慮した購入は行ってない、もしくは担当者任せになっており組織的な基準がない。	グリーン購入の方針、基準を検討している、もしくはグリーン購入の量の割合は50%未満である。	グリーン購入の量の割合は50%以上である。	グリーン購入を積極的に進め、80%以上の割合で実施している。	グリーン購入ネットワーク http://www.gpn.jp/
	その他						

本日検討を行う項目についての補足説明

1. 評価軸の基本構成

客観的データがなく、定量的評価が難しいことから、下記を基本に評価軸素案の策定を行った。

出来ていない … 「～しておらず、検討も行っていない」「取り組んでいない」

遅れ気味で努力不足 … 「検討をしている」

まずまず出来ている … 「取り組みつつある」

よく出来ている … 「積極的に取り組み、実現している」

⇒第9回分科会で上記方向性了承

2. 具体的事項

1) チェック項目N○74

文の前半と後半を入れ替え

2) チェック項目N○76

- ・“設計”の意味が分かるように、“施設・レイアウト”を追加
- ・滞留を追加

3) チェック項目N○85

- ・“無駄な在庫”の意味が分かるように“不動在庫、不良在庫”を追加

4) チェック項目(N○88)

- ・利用実態等がなければ削除してはどうか

5) チェック項目(N○89)

- ・直接印字の現実に即しているか？
- ・STARラベルはチェック項目36でも該当(別途検討)

⇒以上のことから削除してはどうか

6) チェック項目N○25~30

- ・出来ていない … 「～を行ったことがない。」
- ・遅れ気味で努力不足 … 「～提案を検討している。」
- ・まずまず出来ている … 「左記提案を一部の取引先に受け入れてもらい、実施している。」
- ・よく出来ている … 「左記に加え、他の取引先へも広げるべく積極的に進めている。」

7) チェック項目N○55

- ・チェック項目25~30に包含されるため削除してはどうか

8) チェック項目No55

- ・チェック項目 25～30 に包含されると考えられるため、削除してはどうか

9) チェック項目No34

- ・「需要予測の精度を向上⇒システム導入のみ」といった誤解を与える恐れがあるため、“実需要に即応した体制”を追加

10) チェック項目No35について

(1) EDIの導入状況について

「我が国産業界におけるEDI実態調査（2006年度）」（EDI推進協議会）		
EDI導入状況について		
	回答数	構成比
全ての取引先	12	1.8%
一部の取引先	505	77.0%
実施したいが現状は行っていない	55	8.4%
現状実施しておらず、今後行う予定がない	68	10.4%
不明	11	1.7%
無回答	5	0.8%
合計	656	100.0%

⇒8割弱が導入

(2) JTRNの導入状況について

「物流EDI標準JTRN普及実態調査（2003年度）」（JILS）	
①回答企業のうち物流EDIを使っている企業の割合	74% (=180/242)
②物流EDIを使っている企業のうちJTRNを使っている企業の割合	24% (=43/180)
③回答企業のうちJTRNを使っている企業の割合	18% (=43/242)

*2003年度以降調査は行っていない。

11) チェック項目No36について

標準輸送ラベル（STARラベル）についての普及実態に関わる調査は実施されていない。

以上

チェック項目 81 冷凍・冷蔵倉庫の冷媒に関するヒアリング結果と修正素案について

1. はじめに

標記チェック項目に関して、下記の確認を行ったうえで、修正素案を作成することとなった。

- ・ 現状の冷媒の使用割合
- ・ 冷凍・冷蔵倉庫において、冷媒のみの入れ替えの可否

2. 結果

冷凍・冷蔵倉庫を取り扱う加工食品メーカーへ確認を行ったところ、以下のとおりであった。

図表1 ヒアリング結果

	A社	B社
冷媒の使用状況	基本的には主要センターではアンモニアに切り替え	フロン 約7割 代替フロン 数% ノンフロン（アンモニア）約2割 *ただし、倉庫能力ではなく、保有冷媒の比
冷媒のみの切り替え	機械内部にかかる圧力、配管内で流れる時の抵抗等様々な課題があり、冷媒のみを入れ替えることはできず、機械は全て入替となる。 ⇒大幅な設備投資となるため、老朽化により機器を入れ替える以外で、冷媒のためだけに入れ替えることはない。	
その他		フロンの設備は年数が経ってなく、老朽化設備と言えるのはまだ多くないのが現状

3. 修正素案

	出来ていない	遅れ気味	まずまず	よく出来ている
9月21日時点	冷蔵・冷凍倉庫において、ノンフロンを冷媒として使用しておらず、使用の検討も行ったことはない。	冷蔵・冷凍倉庫において、ノンフロン使用に向けて、前向きに検討している。	左記の結果、一部事業所で導入が行われている。	左記の結果、半数以上の事業所で導入が行われている。
修正素案	冷蔵・冷凍倉庫において、ノンフロンを冷媒として使用しておらず、使用の検討も行ったことはない。	冷蔵・冷凍倉庫の設備の入れ替えの際のノンフロン使用に向けて、検討している。	左記の結果、設備の入れ替え等に際し、ノンフロンを冷媒として使用している。	左記の結果、3割以上の倉庫で導入が行われている。

以上

グリーンロジスティクスチェックリストVer. 0.7.2(商慣行のみ抜粋)

方	①ロットの適正化	番号 旧 新	チェック項目	担当者	実施度合い				参考情報等	
					出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている		
針	①ロットの適正化	23	取引先と調整し、取引基準を設定(取引単位を物流単位と整合化するなど)している。	栗原(事務局)	取引先、もしくは自社営業部門の要求どおりの取引単位で物流を実施しており、取引基準の設定についての提案すら行ったことがない	自社営業部門に対し、取引基準の設定提案を行っているが、営業部門に受け入れてもらえない。	取引先に対し、自社営業部門とともに取引基準設定の提案を行っているが、取引先に受け入れてもらえない	取引先に対し、自社営業部門とともに取引基準設定の提案を行い、一部取引先に受け入れてもらい、実施している		
		25	取引先と協力し、取引基準を設定(取引単位を物流単位と整合化するなど)している。		取引先の要求どおりの取引単位で物流を実施しており、取引基準の設定についての提案を行ったことがない。	取引先に対し、取引基準の設定提案を検討している。	左記提案を、一部の取引先に受け入れてもらい、実施している。	左記に加え、他の取引先へ広げるべく積極的に進めている。	・取引条件見直しによる物流の環境負荷低減効果に関する調査報告書(JILS)	
		24	取引先にインセンティブを提供して、輸送単位を大きくするように誘導している。	栗原(事務局)	取引先、もしくは自社営業部門に対して、ロット割引等、輸送単位を大きくするような提案を行なったことがない。	自社営業部門に対し、ロット割引等、輸送単位を大きくするような提案を行っているが、営業部門に受け入れてもらえない。	取引先に対し、自社営業部門とともにロット割引等、輸送単位を大きくするような提案を行っているが、取引先に受け入れてもらえない	取引先に対し、自社営業部門とともにロット割引等、輸送単位を大きくするような提案を行い、一部取引先に受け入れてもらい、実施している。		
		26	取引先にインセンティブを提供して、輸送単位を大きくするように誘導している。		取引先はおろか、自社営業部門に対しても、ロット割引等、輸送単位を大きくするような提案を行ったことがない。	取引先に対し、ロット割引等、輸送単位を大きくするような提案を検討している。	左記提案を、一部の取引先に受け入れてもらい、実施している。	左記に加え、他の取引先へも広げるべく積極的に進めている。	・取引条件見直しによる物流の環境負荷低減効果に関する調査報告書(JILS)	
			その他							
	②頻度・時間の適正化	25	取引先と調整し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を実施している。	堀口	取引先と調整し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を実施していない。	取引先と調整し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を提案している。	取引先と調整し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を一部実施している。	取引先と調整し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を実施している。		
		27	取引先と協力し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を実施している。		取引先はおろか、自社営業部門に対しても、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)提案を行ったことがない。	取引先に対し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)提案を検討している。	左記提案を、一部取引先に受け入れてもらい、実施している。	左記に加え、他の取引先へも広げるべく積極的に進めている。		
		26	取引先と調整し、輸送量のピーク期間を移動させることにより平準化している。	堀口	取引先と調整し、輸送量のピーク期間を移動させることにより平準化は実施していない。	取引先と調整し、輸送量のピーク期間を移動させることにより平準化を提案している。	取引先と調整し、輸送量のピーク期間を移動させることにより一部平準化している。	取引先と調整し、輸送量のピーク期間を移動させることにより平準化している。		
		28	取引先と協力し、輸送量のピーク期間を移動させることにより平準化している。		取引先はおろか、自社営業部門に対しても、輸送量のピーク期間を移動させる提案を行ったことがない。	取引先に対し、輸送量のピーク期間を移動させる提案を検討している。	左記提案を、一部取引先に受け入れてもらい、実施している。	左記に加え、他の取引先へも広げるべく積極的に進めている。		
		27	入出荷時間を定刻化し、貨物車の待機時間を短縮している。	堀口	入出荷時間を定刻化し、貨物車の待機時間は実施していない。	入出荷時間を定刻化し、貨物車の待機時間の提案している。	一部分、入出荷時間を定刻化し、貨物車の待機時間を短縮している。	入出荷時間を定刻化し、貨物車の待機時間を短縮している。		
29	入出荷時間を定刻化し、貨物車の待機時間を短縮している。		入出荷時間を定刻化しておらず、貨物車の待機時間はバラバラである。	入出荷時間を定刻化し、貨物車の待機時間短縮を検討している。	一部分、入出荷時間を定刻化し、貨物車の待機時間を短縮しようとしていた。	入出荷時間ならびに貨物車を定刻化し、貨物車の待機時間を短縮している。				
	その他									
③返品・回収の適正化	28	返品物流費を有償化し、返品を抑制している。	小松	返品物流費が顧客(代理店・販売店)負担になっていない	2~3割の顧客には負担してもらっている	6~7割の顧客に負担してもらっている	約9割の顧客に負担してもらい、抑制効果が出ている			
	29	取引先との調整により、納品条件の適正化や遵守により、返品を抑制している。	小松	取引先との調整による返品抑制はほとんどできていない	調整を試みているが抑制効果はまだ出していない	6~7割の取引先と返品抑制の契約ができていない	約9割の取引先と契約ができ返品抑制になっている			
		物流の無駄の大きな要因となっている、瑕疵のない製商品の返品について、抑制策として返品物流費の有償化や売買契約の見直しなど、具体的な対応ができていない。	小松	販売最優先体質の為、返品抑制対策は具体化できていない。	返品悪については各部署で理解しているが、具体的改善策に取り組み、まず社内から返品削減に関して意識改革を推進する部署がない。	販売先に対し返品物流費の有償化を交渉したり、売買契約に返品抑制のリバート条件を盛り込んだりして、徐々に返品抑制効果が出始めている。	営業の押し込み販売体質も改められ、販売促進策と同時に適正数量の製品導入を図り、得意先との売買契約で返品抑制条件も盛り込んであるので、返品率は減少傾向が前年より悪化はしていない。			
	30	返品抑制のために、返品物流費の有償化や売買契約の見直し等の施策を実施している。		販売最優先体質のため、返品抑制対策を実施できていない。	返品抑制に向け、実施可能な施策に関して、営業部門と検討している。	左記の結果、一部販売先に対し、返品抑制策を実施している。	左記に加え、他の取引先へも広げるべく積極的に進めている。			
	その他									
活	2.2 輸配計画の見直し	①輸配計画の見直し	55	輸送効率向上のために、定期的に納品条件見直し提案を実施し、改善をはかっている。	小松	輸送効率向上策は、特に検討していない	検討はしているが、取引先の了解が得られず実現していない	定期的に配車編成を見直し、効率化を図っている	毎月配車編成を見直し、納品条件の改善を了承してもらっている	
			55	輸送効率向上のために、定期的に納品条件見直し提案を実施し、改善をはかっている。		「納品条件は与件であり、変更できない」といった考えにより、見直し提案を実施していない。	納品条件見直し提案は行っているが、営業部門や取引先の了解が得られず、実現できていない。	納品条件見直し提案を行い、一部取引先で実施している。	納品条件見直し提案を定期的に行い、半数以上の取引先で実施している。	

「行政による支援策の活用」に関する新規チェック項目について（素案）

1. はじめに

「行政による支援策の活用」に関する項目を新たに追加することが、第9回分科会で決定した。以下に素案を示す。

2. 素案

1) チェック項目

「グリーンロジスティクス推進に寄与する、行政等の各種支援策を把握し、活用している」

2) 評価軸

出来ていない	遅れ気味で努力不足	まずまず出来ている	よく出来ている
行政等の各種支援策について、把握していない。	行政等の各種支援策の一部は把握しているが、全体を網羅していない。	行政等の各種支援策について、組織的に把握している。	左記に加え、計画策定時にそれらの支援策が活用できるかどうか、検討している。

3. 掲載箇所について

N o 1 8 と 1 9 の間（方針⇒1.1 全社的な取り組み⇔①グリーンロジスティクスのための仕組み・体制の整備）

以 上

グリーンロジスティクスガイド（仮称）への本チェックリストの掲載について

1. グリーンロジスティクスガイド（仮称）とは

グリーンロジスティクスガイド（仮称）とは、ロジスティクス環境会議に参画していない企業等*¹に対し、環境負荷低減活動への理解を深めていただくとともに、これらの活動を実践するきっかけとなるような内容を掲載したパンフレット（A4 16ページ）であり、ロジスティクス環境会議 第5回企画運営委員会での了承を受けて、現在、作成を行っている。

* 1 環境会議メンバーへの配布も行う。

2. 本チェックリストの掲載について

当ガイドの中で、「環境負荷低減のための活動項目」として、本チェックリストのチェック項目*²を掲載することとなった。ただし、2008年1月11日（金）開催のJ I L S新年賀詞交歓会で、当ガイド（初版）の初回配布を行うため、本日時点のものを暫定版として掲載することとしたい。

* 2 誌面の関係で、評価軸については、例示的な紹介に留めるが、①ホームページで完成版を掲載する、②簡易診断的なものを行う旨の紹介は行う。

3. 初版以降について

第2期ロジスティクス環境会議の活動は2008年3月で終了となるが、その後に制作予定の第2版において、正式版を掲載する。

以 上

**第2期ロジスティクス環境会議
グリーンサプライチェーン推進委員会 2007年度活動スケジュール（案）**

1. 委員会開催

	開催日時	内容
第5回	2007年6月21日（木） 14：00～17：00	・勉強会 ・分科会活動
第6回	2008年2月 日	・成果物案取りまとめ

2. 「取引条件」分科会開催

	開催日時	内容
第4回	2007年5月18日（金） 15：00～17：00	・ヒアリング結果報告 ・活動の方向性検討
第5回	2007年6月21日（木） 15：00～17：00	・ヒアリング結果報告
第6回	2007年8月7日（火） 15：00～17：00	・加工食品をモデルとした共同配送提案確認 ・アウトプットの大枠素案確認
第7回	2007年9月19日（水） 9：30～12：00	・シミュレーション結果報告 ・集約化の課題
第8回	2007年10月30日（火） 15：00～17：00	・入荷時の現状について ・再シミュレーション結果報告
第9回	2007年11月28日（水） 10：00～12：00	・共同化に伴う課題について ・
第10回	2008年1月18日（金） 15：00～17：00	・共同化に伴う課題について ・
第11回	2008年2月 日（ ） ： - ：	

3. 「源流管理」分科会開催

	開催日時	内容
第4回	2007年4月12日（木） 16：00～18：00	・チェックリスト項目検討
第5回	2007年5月17日（木） 16：00～18：00	・チェックリスト項目検討
第6回	2007年6月21日（木） 15：00～17：00	・チェックリスト項目検討
第7回	2007年8月8日（水） 15：00～17：00	・評価軸の項目に関する検討事項の確認
第8回	2007年9月21日（金） 16：00～18：00	・評価軸の検討
第9回	2007年11月9日（金） 16：00～18：00	・評価軸の検討
第10回	2007年12月6日（木） 16：00～18：00	・評価軸の検討
第11回	2008年1月 日	
第12回	2008年2月 日	

第2期ロジスティクス環境会議
グリーンサプライチェーン推進委員会 第9回源流管理分科会 議事録

I. 日 時：2007年11月9日（金） 15：30～18：15

II. 場 所：東京・港区 （社）日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：10名

IV. 内 容：

- 1) 勉強会
- 2) 分科会活動
- (1) チェックリストについて

V. 開 会

事務局より開会が宣された後、以下のとおり議事がすすめられた。

VI. 議 事

1) 勉強会

以下のとおり、勉強会が開催された。

- (1) 大和物流 水頭委員
「大和物流における調達物流共同配送の取り組み」

2) 分科会活動

(1) チェックリストについて

事務局より資料1に基づき、第8回分科会以降の経過について説明がなされた後、資料2-1、2-2、3-1、3-2、参考資料1に基づき、チェックリストの評価軸項目について検討が行われた。主な意見は以下のとおりである。

【主な意見】

(定量的設問について)

幹 事：定性的な設問が多くなってしまうことはやむを得ないが、ある程度定量的な設問を設定することも一案ではないか。

幹 事：特に基準値があるわけでもなく、また業種によって値も異なることが想定されるため、定量的設問を増やすことは難しいのではないか。

幹 事：定量的な設問を設定するにあたり、トライアルを実施することは可能かどうか教えていただきたい。

事務局：委員会メンバーを対象に実施することは可能と考える。

幹 事：設問を絞った上で、トライアルを実施することが望ましいと考える。

(チェック項目 41)

委 員：4項目とも“小箱包装の見直しや廃止”としたほうがよいと考える。

(チェック項目 (42))

委 員：チェック項目 42 と同義のため、削除してよいと考える。

(チェック項目 45)

幹 事：“システム化”の意味について教えていただきたい。

委員：運搬容器やパレットの管理について、システムを用いて実施しているという意味である。
委員：その意味であれば、チェック項目に“管理”という語句を追加するとともに、“リサイクル”は不要と考える。

委員：ビールパレット等の仕組みも“システム化”と捉えてよいか教えていただきたい。

委員：広い意味では“システム化”に含めてよいと考える。

幹事：『できていない』には全社的に実施していないという意味を含めるべきと考える。

(チェック項目 52)

幹事：『よくできている』は、原案の意味も加味し、“リードタイム等の見直しを含め、使用の拡大に向けて検討”といった表現の方が適切だと考える。

(チェック項目 53)

幹事：配送を強調するのであれば、チェック項目の“輸送ルート”“輸送回数”“輸送計画”を“配送ルート”“配送回数”“配車計画”に変更すべきと考える。

委員：『遅れ気味で努力不足』を“検討している”、『まずまず出来ている』を“取組みつつある”に変更してはどうかと考える。

(チェック項目 54)

委員：チェック項目 53 と同様に、『遅れ気味で努力不足』を“検討している”、『まずまず出来ている』を“取組みつつある”に変更してはどうかと考える。

(チェック項目 (56))

委員：当社では求貨求車システムは帰り荷の確保のために自社システム等を積極的に活用しており、項目としては残してもよいのではないかと考える。

幹事：“求貨求車システムを利用している/していない”ではなく、“帰り荷の確保のための工夫をしている”といった設問にしてはどうかと考える。

(チェック項目 57)

幹事：“～すら行っていない”という表現は強すぎるため、“～したことがない”に修正したほうがよいと考える。

(チェック項目 64、65)

委員：グリーン物流とは直接かかわりのない項目と考えられることから、削除したほうがよいのではないかと考える。

(チェック項目 66)

幹事：『よく出来ている』の燃費値等を捉えるためには、チェック項目 67 にあるデジタコが必須になるのではないかと考える。

委員：通常のタコグラフでも現実的には不可能ではない。

幹事：チェック項目にある“マニュアル等を用い”が評価軸の中には含まれていないのではないかと考える。

幹事：数値管理とともに、“勉強会を継続して実施している”といったことを追加してはどうか。

幹事：事故率が必要な理由を教えていただきたい。

幹事：運転が乱暴だと事故が多くなることもあり、当社の事業所でも管理指標の1つとしていた。

(チェック項目 69)

幹事：『出来ていない』の“全く”、『遅れ気味で努力不足』の“あくまでも”は不要と考える。

(チェック項目 31)

幹事：行政施策については、まとめて1項目にすべきと考える。

委員：評価軸については、資料2-2の1項にある方針どおりでよいと考える。

(チェック項目 32、33)

幹事：参考資料1にあるエコルールマークの認定基準に準拠する形でよいのではないかと考える。

(評価軸の字数について)

委員：意味が通じる範囲で、思い切って字数を削除してはどうかと考える。

幹事；見た目のバランスもあるため、短いパターンと現状パターンで比較した上で決定してはどうか。

(参考情報について)

幹事：最終的にはできるだけ埋めることが必要だと考えるが、その場合は団体等の情報の方がふさわしいと考える。

【決定事項】

- ・チェック項目 40 から 49、52 から 54、56 から 63、66、67、69、31、32 の評価軸が確定した（別紙参照）
- ・チェック項目（42）、64、65 を削除する。
- ・以下の項目については、事務局で原案を作成することとする。
 - ①チェック項目 30
 - ②チェック項目（56）
 - ③行政施策に関する項目
- ・チェック項目すべてを見直し、“全く～していない”、“～すら”といった表現を修正する。
- ・評価軸の字数が短いパターンと現状パターンの2つを作成し、比較することとする。
- ・定量的な設問項目については、別途検討することとする。

(2) 今後の進め方について

第10回分科会については以下のとおりで開催することとなった。

日時：2007年12月6日（木） 16時－18時

会場：JILS 会議室

詳細については、別途事務局から連絡することとなった。

VII. 閉会

以上をもって全ての議事を終了した。

以上